

東コミ福祉包括ケアシステム

1 号

実行委員会だより

発行日／2024. 8. 27

発行：東コミュニティ運営協議会 電話：504－1430

R6 第 1 回福祉包括ケアシステム実行委員会を開催 (R6. 8. 22)

「第 2 次まちづくり計画」に基づく、令和 6 年度第 1 回目の福祉包括ケアシステム実行委員会を開催しました。

第 1 回目の委員会の議題は、第 1 次計画の振り返り、そして、第 2 次計画がどのように策定されたかの経緯を説明し、協議しました。

第 1 次計画では、高齢者に特化した対策を行いました。これらの対策の成果と課題について、委員会で確認し、第 2 次

計画で実施する対策の参考としました。

第 2 次計画では、地域の皆さんで作成したまちづくり計画に基づいて、どの様に実行していくかを話し合いました。

- ① 市役所、社協、東包括支援センターなどの話を聞く
- ② 委員の皆さんが活動される中で感じたことを聞く

これらの話から、次回以降に協議をしていく課題について整理されました。

委員会の皆さんの意見

- ◎高齢者の見守りに従事する人員が足りない
- ◎地域の協力を得ながらの体制づくり
- ◎町内会に加入しない世帯が増えているので声掛けが難しい
- ◎高齢者との交流や情報の伝え方が課題
- ◎ICT 見守りシステムの活用が必要
- ◎見守りの確認のやり方
- ◎今後は、防災での見守りとセットで考えるべきでは
- ◎見守りをする側がどんどん減っている。高齢者が高齢者を見守る状況となっている

委員の意見から今後どのような対策が必要か？

【三つの課題】

1. 人材不足の対応
2. 人とのつながり
3. 災害にも対応した見守り

今後の取組み

次回からの委員会の進め方については、委員さんから出てきた意見を基に、どのように活動を進めていくかを、事前に、市役所を始めとする関係機関と協議を行い、次回以降の委員会に提案していきます。

【今後の課題】

- 1) 人材不足の対応について
 - ・活動されている福祉部や民生委員の方々の負担を減らす
 - ・新たな人材の育成
- 2) 人との関わり繋がりについて
 - ・他市町の事例などを調べ、視察等を検討する
- 3) 福祉と防災を区別なく対応する仕組みを考える



【 参考資料 】 第 2 次まちづくり計画 Plan2～福祉～

Plan 2 ～福祉～

高齢者など支えが必要な人に寄り添う“支え合い”のまちづくり

- ▼東コミに暮らす一人一人の個性を互いに認め合いながら、地域の中で困っている人や支えを求める人の存在に気づき、その上で「自分にできることをする」「地域や相談機関につなぐ」といった行動をとれる人が増えていくように、地域における「見守り」の輪を広げていきます。
- ▼高齢化社会の中で全国的に整備が進められている「地域包括ケアシステム」の枠組みの中で、コミュニティに求められる役割を認識しながら、東コミならではの「支え合い」「助け合い」のしくみを検討していきます。
- ▼東コミで、これまでも続けられてきた「番茶の会」や「シニア部芸能大会」をはじめとした「交流型の事業」を通じて、生きがいづくりや健康増進の機会を作っていきます。
- ▼ボランティア運転手の皆さんの協力や、企業・事業所の方々の寄付等によって運行されている、高齢者移動支援バス「おげんき号」は、年々乗車人数も増えています。今後も市の公共交通のあり方に合わせながら、通常運行以外の活用方法も含めて検討し、より使いやすいサービスとなるよう努めます。

実施する事業	取組の内容	具体的取組の例
(1) 見守り・生きがいづくり事業	・認知症等による徘徊・行方不明者の搜索体制の検証 ・「新たな時代の見守り」の仕組み・ツールの運用 ・交流型事業による生きがいづくり ・健康増進の推進 ・「元気な高齢者」の活躍の場の創出	・認知症 SOS ネットの見直し（アップデート） ・誰でもできる見守り活動 ・高齢者を中心とした、交流や健康増進イベントの検討 ・高齢者による見守り活動や、子ども向けの社会教育活動 ・福祉や共生をテーマとした講演会等の開催 ・コミュニティ通信やホームページ・SNS(LINE 等)による情報提供、各種相談窓口の情報周知 ・「おげんき号」の運行や試乗会実施など
(2) 福祉に関する啓発事業	・福祉や共生をテーマとし、見守りの輪や支え合い・助け合いの輪を拡げていくための啓発活動 ・各種相談窓口等に関する情報提供	
(3) 高齢者移動支援事業	・高齢者移動支援バス「おげんき号」の運行と、新たな活用方法の検討	

※ 次回の開催は、決まり次第お知らせします。